健康生活と看護学研究　6：14–20（2023）

〔国際看護学海外研修報告〕

2023年度国際看護学海外研修学生引率報告（1）
9月3日から9月7日までの病院や看護学部での研修編（国立モンゴル医科大学看護学部，国立母子保健センター，特別公務員病院，日本モンゴル教育病院，国立モンゴル医科大学，国立モンゴル伝統病院，JICA事務所）

三並めぐる[1)]　髙田律美[1)]　上西孝明[1)]　高野春香[1)]　岡靖哲[2)]

[1)] 人間環境大学松山看護学部
[2)] 人間環境大学アカデミックアドバイザー
松山看護学部非常勤講師，愛媛大学医学部

Ⅰ．はじめに

人間環境大学松山看護学部の特色である「国際看護学」の選択科目「国際看護学海外研修」が３年ぶりに開講された．科目の目的は，「国際看護学Ⅰ・Ⅱで学んできたことを踏まえ，主に途上国の地域の環境，文化，生活とそこに住む人々の言語や価値観を知る．海外の大学と病院を中心とした施設で，看護の実際を見学し，幅広い視点から自らの看護観を醸成する．また，海外渡航経験を通して，自らと集団の安全管理と法の順守などを体験的に学修する」である．

今年の履修学生は，３年生１名と２年生３名の計４名で，学生が今回の海外研修の目標にあげた二つの目標は「たくさんのことを学んで吸収したい！」「新しいことに挑戦し自身の力に変えていきたい！」であった．その目標を達成できるために「みんなで健康管理と質問をできるだけ多くしよう」とワクワクの海外研修に旅立った．旅は３度楽しむものである．国際看護学海外研修では，事前研修でのワクワク，モンゴル国でのワクワク研修，帰国後のワクワク報告会等，学生たちも大変充実した時間と体験を思い出とともに刻んだと推察する．下記に本年度の海外研修学生引率報告をさせていただく．

Ⅱ．国際看護学海外研修スケジュール

１．出発までの取組（事前）

４月12日：国際看護学海外研修説明会にて，訪問国およびBCNRの概要説明
４月23日：履修生確定（２年生３名と３年生１名　計４名）
７月21日：海外留学生安全対策協議会（JCSOS）による海外渡航に関する注意等のガイダンスおよび海外旅行保険の説明会
８月１日：第１回参加学生説明会
海外研修日程確認および保護者への同意書・誓約書の説明と提出依頼，緊急連絡網・旅行代金と納入方法，事前レポートおよび事後レポート，成績評価について説明，安全管理と健康管理・暑さ対策，服装および持参品について
８月21日：保護者説明会（２年生３名　３年生１名　計４名）
出席者：本学来校保護者ご夫妻とZoom参加保護者３名，河野学部長，髙田教授，三並教授，上西講師，岡靖哲本学アカデミックアドバイザー・愛媛大学教授，高野事務職員
海外研修日程説明と事前研修視察報告，海外での安全管理，質問と回答
８月22日：第２回学生説明会
非常勤講師Oyunsuren Munkhjangal先生からのモンゴル語指導，日程再確認，健康状態と服装・持参品等確認，浴衣着付け練習，質問と回答
９月１日：健康状態確認
９月２日：引率教員交代について学部長から保護者に電話報告と承諾を得る

２．研修期間：2023年9月3日（日）～9月11日（月）

研修先：モンゴル国ウランバートル市（国立モンゴル医科大学看護学部，国立母子保健センター，特別公務員病院，国立モンゴル医科大学，日本モンゴル教育病院，JICA事務所，国立モンゴル伝統病院，テレルジスターリゾートゲル体験，ウランバートル市内観光）
履修生：４名（２年生３名と３年生１名）
引率者：三並めぐる　岡靖哲　清水洋志

3．研修後の取組（事後）

９月12日：健康状態確認
９月22日：海外研修事後アンケートおよび学びレポート提出
10月13日：海外研修報告会
10月15日：大学祭にて展示発表報告

Ⅲ．国際看護学海外研修概要（出発から病院や看護学部などの研修編）

１．１日目：９月３日（日）松山出発からモンゴル国到着まで

１） ６：10松山空港集合　7：45松山空港出発―9：10羽田空港に到着

全員健康状態が良いことを確認した．岡靖哲教授と清水看護師の自己紹介があり，河野学部長からの「実り多い研修になるよう一人ひとりがしっかりと目標を達成できるように学んできてください」とのご挨拶後，保護者と河野学部長，近江事務部長，西岡係長の見送りをいただき，出発した．

２） 羽田空港　→　成田空港　リムジンバスで移動（約75分）

旅慣れている岡教授のおかげで出国の荷物手続きもスムーに進み，遅めの昼食を摂った．学生の「出国前に最後の日本食を食べたい」の言葉で，昼食は．ざるうどん，きつねうどん，きつねそば，カツカレー，カレーうどん，肉うどんとみんな最後の？日本食を味わった．

３） 14：40成田空港発，20：15チンギスハン国際空港到着

日本との時差は１時間で約５時間半あまりの旅を終え，チンギスハン国際空港に無事到着した．荷物の受け取りと入国手続きもスムーズで，出迎えの現地女性通訳者と対面できた．にこやかな笑顔（笑顔は人を安心させることを体感）で出迎えてくださり，20人乗りの黄色い小型バスで一路ウランバートル市内のホテルに移動した．バスの正面には，草原のはるか向こうの山に丁度夕日が沈むところで幻想的な景色がしばらく眺められ，学生達も感動していた．大自然が私たちを出迎えてくれている感銘とあたたかい気持ちに満たされた（夏は22：00頃まで明るいとのこと）．今回の研修もここでしか感じられない大自然とあたたかな人々との出会いが待っているであろうとワクワクした．

４） フラワーホテル到着

私たちの宿泊先ホテルは，JICAの関係者が定宿として利用していることから日本語が堪能なスタッフが常時いる．また，ホテルの１階に両替所があり，日本円からモンゴル紙幣に両替でき（１月の事前視察旅行で両替には苦労したのでとても助かった），日本レストランのほか，中華料理やインド料理のレストラン，富士というラウンジもある．日本並みのサウナつきの浴場もある（毎日サウナに入った学生もいた）など，快適である．部屋はツインのセミダブルが整えられた広い部屋に各自一人ずつが宿泊した．

２．2日目：9月4日（月）国立母子保健センター　12：00～16：30

今日から現地での研修が始まる．国立母子保健センターは，看護部長と面談後，４つの母性部門を副看護部長の案内で見学研修した．ここでは74人の助産師と100人の看護師が働いている．

１）妊婦部門：この部門ではモンゴル国のハイリスク妊婦さんが受診されており，高いレベルの観察やケアが求められている．

２）産婦部門：毎日20～30名のお産があるそうで，２時間前に出産された産婦さんがおられた．当初出産も見学できる予定であったが，見学中には出産はなかった．医師と家族が付き添ってもうすぐ出産されそうな方はおられたが・・・．

３）褥婦部門：２日目の赤ちゃんと褥婦さんと面会できた．自然分娩と帝王切開では母乳の出方も異なる為，褥婦さんには羊のスープやお茶など自然の食べ物が摂れるような工夫がされていた．家族が一緒に寝泊まりできるVIPルームもあり，個室で出産できるように分娩台もある部屋が８部屋用意されていたが常に満室とのことであった．

４）救急車や自家用車で緊急受診ができる外来：24時間助

産師と医師が勤務している．10代の若い人から基礎疾患のある妊婦の緊急受診に対応しており，受付では助産師が血圧測定と問診を行い，入院させるべきかどうかなどの判断も担っている．助産師の髙田教授がおられたら目をキラキラさせて学生たちにも様々な説明をしてくださるだろうと岡教授とともに何度もつぶやきあった．

４人の参加学生はほとんど背格好も似ており，表情も穏やかでにこにこしているので，日本人形のようである．どの部署に行っても「かわいいねえ～」と助産師や看護師たちから声をかけられる．モンゴルの女性は背が高くしっかりした骨格の女性が多い印象を受ける．「幼い頃から乳製品と肉をたくさん食べているので体格が良いのでしょう」との通訳者談であった．帰国後調べてみたところ，成人男性の平均身長は170cm，女性は平均158cmの体格で日本と変わりなかった．

モンゴル研修初日であり，「外に食べに行きたい」と話していた学生たちも帰りのバスの中では途中から爆睡し，ホテル到着後は「疲れたのでホテルで食べます・・・.」と判断し，夕食は日本食レストランで食べたとの報告を受けた．

本日の歩数は9,859歩．明日は420人の看護師が働いている小児部門の見学研修である．

３．３日目：９月５日（火）　国立母子保健センター　９：30～13：00

天気は晴れで朝の気温は15度，日中は31度まであがった．空気は乾燥している．そのため咽頭痛や乾いた咳が出ることがある．肌も口唇も水分が不足し荒れてガサガサしている．だらだらという汗は出ないが，建物間を移動中の日差しは強い！！こんなに暑いのは想定外！日本のクリスマス頃と聞いていたことに加え，今冬の事前視察ではマイナス42度の厳寒ショック体験をしていたため，私のスーツケースの中身は，ヒートテックにセーター，カーディガン，コート，ブーツ，手袋，帽子，ダウンで占められている．今のところ全く出番はなく，松山出発の服装で十分である．

これは想定外である．

今日は国立母子保健センター小児専門部門の見学研修である．

１）小児のがん病棟：建物の４・５・６階の各階にプレイルーム（保育士は配置されていない）と家族用のキッチン（日本でいうとワンルームマンションについているような狭いキッチンと冷蔵庫があり，付き添い家族が簡単な料理ができるメリットがある）が整っている．入院患児は乳幼児と学童期が多く，思春期の子どもは見学中ほとんど出会わなかった．病室はほとんどが４人部屋でベッドは壁に寄せてあるが，カーテンはなくプライバシーの保護については疑問が残った．シーツは白色ではなくピンクや水色をベースとした花柄模様である．

２）呼吸器病棟：ベッド数は60床で，冬場は満床（ウランバートル市内の大気汚染は深刻で幼い子どもたちの呼吸器疾患が多い）になるが，当日は約30人の乳幼児が入院しており，特に乳児が多いという印象を受ける．病室にナースコールボタンはなく，廊下に監視カメラとナースコールが設置されていた．学生もベッドサイドにナースコールがないことを不思議に思い質問したところ，廊下の監視カメラとボタンで対応しているとのことであった（45年前に建設された建物構造と経済的なことも関連していると推察）．廊下にあるナースステーションは受付カウンターがあってパソコンが置いているだけの所に看護師が１～２人常駐している状況である．処置室に点滴セットが作れる薬剤保管庫はあるが，いたってシンプルで点滴台などは目にしなかった．

３）手術部門：眼科と耳鼻科の部屋の手術前の部屋を見学したが，日本の外来施設のイメージで部屋は広いがシンプルである．救急や手術場の張り詰めた緊張感は伝わって来なかった．

４）小児救急外来：ここは救急車や紹介受診で１日300～450人の子どもたちが受診しており，ごったがえしている．発熱や喘息発作での受診が多く，４人の日勤看護師のうち２人が受付で問診し，残り２人が診察室担当体制である．24時間体制のため，夜勤は看護師と医師１名が救急対応をしている．診療代金と検査代金は別々の自動精算機で直接に家族が支払うシステムになっていた．

５）NICU：感染防止のため学生２名のみが見学できた．ベッド数は12床のところ19床と超過状況である．日勤看護師は本来７～８人いるが当日は４人勤務（看護師不足のためとのことで，勤務者にとっては超ハード！学生たちにもモンゴルの看護師になって！と話された）であった．学生もそこには疑問を持ったようで，看護師の勤務体制のことを質問できていた（偉いぞ！学生！！）．当日の夜間勤務は３人の勤務体制とのことであった．

国立母子保健センターは，今春から始まった45年前の建

物の大改築中のため使えないエレベーターも多く，建材やペンキの臭いもかなり強いが，改築されている病棟は明るく清潔感もあり，来年度の履修生は生まれ変わった病院見学となるだろう．

MOUや謝金のことで母子保健センターの研修企画トップのエンクマ医師と15：00の約束のため学生は先にバスでホテルに戻ってもらい，私たちと通訳者は病院近くで昼食後，15：00～16：00までエンクマ医師と打ち合わせし16：30にホテルに戻った．

学生たちは，ホテルから100m先にあるマーケットに出かけたとのことで，「広くて迷いました」と話していた．４人のメンバー学生を３年生の学生がニコニコしながらまとめてくれており，夜電話をかけると４人が一人の部屋に集まっていた．「今日は質問もいろいろできたので，勉強になりました」とのこと．学生たちも元気でチームワークを保って笑顔で過ごしており，質問も増えていて，学生と一緒の時間は本当にワクワクする．本日の歩数は6,586歩である．

４．４日目：９月６日（水）日本モンゴル教育病院　JICA事務所　国立モンゴル医科大学　国立モンゴル伝統病院　10：30～17：00

今日は日本モンゴル教育病院（通称：日モ病院）と国立モンゴル医科大学，国立モンゴル伝統病院の見学研修である．日本の資金援助で建設された病床数150床の病院で，建物入り口には「この建物はすべて日本の国民のお金で建設されました」と記されている．2019年に開院した日モ病院の建物はガラス張りで明るく，日本の病院内にいるように感じられる．コンセプトは，医療者を教育する日本式の病院とのことである．

１）病院内のJICA事務所訪問：島田雅暁事務所長（長崎大学名誉教授　熱帯医学研究所）と榎本かよこJICA職員（先日までパキスタンで支援されていた教育専門業務調整員　日本では教育者経験）の現地スタッフ２名が対応してくださった．ここでの学生からの質問と島田事務所長はじめスタッフの皆さんとの回答はとても有意義な時間になった．

２）日モ病院内の外来部門と検査部門，受付部門などを見学：診察や検査，薬代はその都度，患者自身が自動支払機で支払うシステムである．教育病院のため研修医も多く，日本では医師や検査技師が担っている検査を看護師が患者さんに行っている姿も目にした．

３）日モ病院病棟見学：前日の母子保健センターとは全く異なり，日本のナースステーションと同じような広さでモニターや薬剤戸棚もある．29床の病棟は，ほとんどが４人部屋で日本の病室と同じようなカーテンで仕切られている．ナースステーションの隣は，ICUから戻ってきた患者の観察室でモニターや点滴台は見られたが，他の病室と同じ作りの４人部屋であった．昼食時間と重なったが，日本の患者にあわせた個別の病院食とは異なり，患者自身が自宅から持参したと思われる大きめの器とコップを病室の誰かのオーバーテーブルに並べる．それに係りの女性二人がダイナミックにご飯とおかずを丼状態に入れ，コップにはモンゴルスープを注ぎ，滋養強壮がつきそうな全員同じ昼食であることにも驚いた．病棟出入口には，退院した患者さんからのメッセージの掲示物があったが，木の葉の色合いや優しく飛び交う鳥たちの動きも退院を祝っていることが伝わった．

４）国立モンゴル医科大学医学部見学：６階建ての中の講義中の教室や演習室，留学生のための研修などがある．すべての講義が英語で行われており，学生はドクターコートを全員着用して講義を受講している．建物のあちこちの廊下の隅やエレベーター横に観葉植物が何種類も置かれているのも特徴的である．

５）国立モンゴル伝統病院見学：１階の外来では鍼灸や吸い玉，瀉血が行われる診察室が並んでおり，２・３階が病室である．２階では25床の病室を看護師一人だけで担当し，エレベーターを降りたところの受付カウンターにカーディガンを羽織って座っている（受付の方？と思わせるような穏やかな雰囲気に少々驚いた）．

私たちには，すべてモンゴルで採取された薬を粉薬や粒にしたものを施錠している棚を開けて特別に見せてくれた．病棟内には鍼灸師が施術するためのカーテンで仕切られたベッドが５台並んだ部屋や柔道整復師が担当する部屋もある．入院患者の主訴は腰痛と背中の痛みが多いとのことであるが，働きすぎてストレスが多い人も一

週間くらいここで治療を受けてリフレッシュして退院する．入院費用は保険適応される．メンタルケアが必要な対象者への入院治療が行われていることに興味をそそられた．本日の歩数は4,647歩であった．

5．5日目：9月7日（木）8：30～　国立モンゴル医科大学看護学部　特別公務員病院訪問

1）国立モンゴル医科大学看護学部に到着し，広い会議室に通され，OYUNGOO看護学部長から国立モンゴル医科大学看護学部（日本の東京大学看護学部と理解してくださいと岡教授談）紹介を受けた．

国立モンゴル医科大学は６つの組織（医学部，歯学部，看護学部，公衆衛生学部，薬学部の ５ 学部と附属病院・日モ教育病院・伝統医療病院）を持っており，看護学部もその一つである．看護学部では計2,000人の学生が在籍しており，大学院博士前期課程と後期課程，看護学科，助産学科，理学療法学科，臨床検査学科，歯科衛生学科等がある．看護学科では４年課程，３年課程の他に看護助手コース（１年課程）も設けている．学部では看護師，助産師，理学療法士，作業療法士を養成している．保健師という国家資格はなく，看護師コースの学生が４単位の公衆衛生科目を履修し卒業すると，保健師のような仕事ができる．モンゴルの合計特殊出生率は2.84（2021）であるが，2002年からは特に助産師教育に力を入れている．

2）学部長からの「何か質問はありませんか」に対して，学生たちも積極的に質問をした．

質問１．OTやPTも授業は一緒に受けるのですか．

入学時から看護師コース４年課程（200名）３年課程（90名）と助産師コース（100名），PT，OTは，カリキュラムが違うので授業は一緒には受講しない．４年生では卒業研究が入っている．特に近年は国がPT，OTの養成にも力をいれている．

質問２．助産師はどんなにしてなれますか．

看護師と助産師は入学時からカリキュラムが異なっているため，授業も別々で受講し，助産師コースには男子学生も３人在籍している．日本は女性のみの仕事だと話すと「なぜ？　どうして男性は助産師になれないの？」と不思議がられた（これは今後討議すると本質がみえてきそう・・な楽しみな課題である）．

質問３．助産師は看護師の仕事もしますか．

カリキュラムが異なるので，助産師は看護師の仕事はできないシステム（日本とは異なるカリキュラムと資格）になっている．

3）看護学部施設見学

教員の研究室は個室ではなく，領域ごとの共同研究室であり，どの教員もにこやかな表情で迎えてくださる．

施設見学は，PTとOTの演習室，基礎看護学，母性，小児，成人の演習室を見学した．日本の一教室分ほどの広さで，置かれている資材は本学部生が使用しているものとはかなり異なっており，昭和を感じるような資材が多いように感じる．ただ，マジックミラーで学生の学び評価が行える助産師育成のためのオスキーの部屋が準備されており，カーテンを閉めても人の学生の演習や試験評価が行えるように天井にカメラが４個設置されている．UNICEFから寄贈された新生児のモデル人形や成人の救急対応，助産の分娩などは，別棟で施設が作られていた．「このような施設は本学部でもあったらいいなあ・・・いいなあぁ～」と学生たちも話していた．助産師教育に特に力を注いでいることが新設されたと思われる施設設備や備品などから伝わる．

4）昼食と特別公務員病院訪問

看護学部を昼過ぎに出て，近くのレストランでそれぞれがモンゴルの焼うどん，モンゴル餃子などを食べて特別公務員病院（通称：グリーンホスピタル　建物の壁も薄い緑色，院内の案内板，ドクターや看護師の服も緑色，患者の病衣も白地に緑色の模様で癒しの緑色で統一されている）に移動した．

ここは，モンゴル初の睡眠センターを設立することに尽力された岡教授のホームグランドのため，先方の医師や看護師の皆さんも私たちを歓待してくださる．お茶やお菓子のおもてなしをうけ，睡眠センターの宿泊検査室や神経内科病棟内の見学を行った．

5）モンゴル歴史民俗博物館

特別公務員病院から歩いて５分ほどのところにあるモンゴル歴史民俗博物館では，モンゴルの歴史や伝統衣装などの見学を行い，モンゴルの歴史に触れた．

その後，岡教授お勧めの「ブラッグバーガー：名前の通り，パンがブラッグ中身はハンバーガー」をテイクアウト

して16：30にホテルに戻り一日の研修が終了した．当初の予定は，みんなで一緒に夕食を食べましょう！と話していたが，昼食が遅かったこととブラッグバーガーのテイクアウトで夕食はまたのお楽しみに決定した．

さて，ここで問題．下記のモンゴル事情のうち正解はいくつあるでしょう？

1）モンゴルの道路は右側通行
2）モンゴルにある高速道路は空港に向かう１本だけ
3）モンゴル人の体格は良い．それは，子どものころから肉や乳製品をたくさん摂っているからである．
4）モンゴルの家庭内分業はfifty—fiftyで料理や子育てもお互いが協力できている．
5）ウランバートル市内に住んでいるモンゴル人の多くは，郊外に別荘を持っており週末や長期休みには別荘で過ごす人が多い．
6）モンゴルの貧富の差は大きい．
7）モンゴルで働く医師や看護師，教師の給料は高い．
8）ウランバートルの空気は乾燥している．
9）学生たちのこちらでの悩みは肌の乾燥で顔の皮膚が痛い．つっぱったようでヒリヒリ（保湿しなければもうやばい！！）
10）空気乾燥により目や鼻，喉の粘膜が痛い！唇の皮膚もカピカピィ～～！
11）ウランバートル市内に住む人の悩みは環境汚染である．特にその原因となっている車の排気ガスと冬の暖房で使用する石炭からの二酸化炭素で汚れる空気をきれいにすること
12）ほとんどのトイレにはトイレットペーパーが無い！かなり不便．知らなかったら大変！
13）トイレで使ったトイレットペーパーなどの紙類は流せない．便器横の入れ物にすべて入れる．これも慣れるまで本当に大変！！　SDGsで環境には優しいが・・．
14）食事メニューには，野菜が盛りだくさんである．
15）山盛り野菜サラダが一番に出される，その後，スープとメイン料理が出る．
16）走っている自動車のほとんど９割は，日本の中古車が走っている．レクサス，クラウンやクルーザー系のアウトドア車などかなり大きな車も多い．
17）自転車に乗っている人が多い．
18）立って乗るスクーターのような乗り物に乗っている人を時々みかける．一般道路を走っていてびっくり！！
19）ホテルの浴槽にためた水は薄い茶色．これは困った！
20）ホテルの部屋にティッシュがない．これも困った！

いかがでしたか，皆さんは，20問のうち何問が正解でしょうか．

7）番と17）番以外はすべて正解．

7）番：昔は，医師や看護師，教師の給料はとても良かったが，今はあまり高くなく，公立より私立の病院の医療職の方が給料は良いとのこと．

17）番：ウランバートル市内は交通量が多いことと排気ガスの問題で呼吸器に即影響を受けるため自転車は，少ない．また，冬場は道路が凍結しているため，自転車は皆無である．

本日の歩数は8,575であった．明日は国立モンゴル医科大学看護学部２日目とツーリストキャンプが待っている．

６．６日目：９月８日（金）国立モンゴル医科大学看護学部　ツーリストキャンプ

8：30に午後からのツーリストキャンプの荷物も持ってホテルを出発し，看護学部に到着．午前中は，栄養学の授業見学と手洗いの演習見学を行い，最後は日本語倶楽部との交流会をおこなった．

日本語倶楽部担当のTuya先生（日本語がとても上手な女優の原田美枝子にそっくりな先生）は，大学卒業後通訳の仕事をされていた時に，病院で通訳をする機会があり，「看護師って本当に素晴らしい仕事．いつも患者さんのそばにいて，医師もすごいけどもっとすごいのは看護師だ」と思い，それから看護師資格取得の勉強をして今は，公衆衛生看護学分野を担当されている目もキラキラ，表情もきりりとした素敵な30代？の女性である．

日本語倶楽部は2022年５月から27名の学生でスタートし，ひらがなカタカナから学び始めて書道や折り紙などの練習をしている．４年生の部長はとても美しい日本語で自己紹介をしてくれた．

本学部学生たちは準備していた各自己紹介と大学看護学部紹介スライドを披露した．３年生の学生は，質問も取り入れたプレゼンテーション能力を発揮しつつ，２年生のフォ

ローも優しく丁寧にでき，さすが三年生と思える力を出せる学生であった（Tuya先生からは，「うちも来年はもう少しスライドなど準備しておきますね.」とお話があったので，本学部の準備としては良かったのだと思われる）.

その後プレゼント交換をして，先方で用意されていた習字に学生が「日本」医科大学生が「モンゴル」とモンゴルの文字ウィグル文字？で和紙に書きしたためた，折り紙を折っている間は日本の歌紹介をBGMとしてハーモニカで三並が吹いた（岡教授からはまさかのBGMだったけど，とても良い雰囲気になったとお褒めの言葉をいただいた）.学生たちも歌を２曲準備していたが，それを披露することもないほど折り紙やお互いのコスプレ交換で大いに盛り上がり，瞬く間の時間となった.

記念撮影も行い別れを惜しみながらも看護学部を後にして，いざ　ツーリストキャンプ場（テレルジスターリゾート）出発！！

文責：国際交流委員・小児看護学教員　三並めぐる